

茶をめぐる情勢

令和 8 年 4 月

農林水産省

[目 次]

1. 我が国におけるお茶生産	1
2. お茶の生産動向	3
3. 荒茶価格の動向	4
4. お茶の消費動向①	5
5. お茶の消費動向②	6
6. 消費市場の変化	7
7. 日本茶と暮らそうプロジェクト	8
8. 消費の拡大（茶の機能性のPR）	9
9. 茶産地の現状①	10
10. 茶産地の現状②	11
11. 茶産地の現状③	12
12. 茶産地の現状④	13
13. 生産力強化に向けた取組（スマート農業の展開）	14
14. 自然災害等のリスクへの備え	15
15. お茶の輸出入の動向	16
16. お茶の輸出実績	17
17. 形状別のお茶の輸出実績	18
18. 有機栽培（有機JAS）茶の輸出について	19
19. 輸出拡大に向けた環境整備の取組	20
20. 輸出拡大実行戦略（茶）	21
【参考資料編】	22

1. 我が国におけるお茶生産

- お茶は、生葉の収穫後、産地で荒茶に加工され、消費地において製茶にブレンドして販売。荒茶段階では、763億円の産業規模。
- 主要産地は、栽培面積順で、①静岡県、②鹿児島県、③三重県、④京都府、⑤福岡県。上位3県で全国の栽培面積の約7割を占める。
令和6年産及び7年産の荒茶生産量において、鹿児島県が統計開始以来、初の日本一。
- 各茶産地において、せん茶、かぶせ茶、玉緑茶、玉露、てん茶など特色ある茶を生産。

○ お茶の形態変化と産業規模








○ お茶の主産県と生産の特色 (令和7年度)

順位	府県名	栽培面積 (ha)	荒茶生産量 (t)	生産の特色 (順位は令和6年度のもの)
1	静岡	11,600	24,100	「せん茶」、特に「深蒸しせん茶」を主体とした生産。「てん茶」及び「かぶせ茶」の生産が全国3位
2	鹿児島	8,040	30,000	「てん茶」の生産が全国1位。多様な品種構成
3	三重	2,580	4,860	「玉露」及び「かぶせ茶」の生産が全国1位
4	京都	1,510	2,280	「玉露」及び「てん茶」の生産が全国2位
5	福岡	1,450	1,850	「玉露」の生産が全国3位
6	宮崎	1,110	2,880	「釜炒り茶」の生産が全国1位
7	熊本	908	1,140	「玉緑茶」の生産が全国3位
8	埼玉	690	921	「せん茶」を主体とした生産
	全国	33,400	75,100	

資料: 農林水産省「作物統計」

(参考) お茶の種類

種類	特徴及び主な産地	荒茶生産割合及び 荒茶価格(R6年)
 <p>せん茶</p>	<p>[特徴] ・最も一般に飲まれるお茶。新芽を蒸して揉んで乾燥させて製造。</p> <p>[主な産地] ・全国</p>	<p>[生産割合] 49.7%</p> <p>[荒茶価格] 1,197円/kg</p>
 <p>ぎよくろ 玉露</p>	<p>[特徴] ・藁や寒冷紗などで、収穫前20日程度の被覆栽培を行い、煎茶と同様に新芽を蒸して揉んで乾燥させて製造。</p> <p>[主な産地] ・三重県、京都府、福岡県</p>	<p>[生産割合] 1.0%</p> <p>[荒茶価格] 2,637円/kg</p>
 <p>かぶせ茶</p>	<p>[特徴] ・藁や寒冷紗などで、収穫前7日程度の被覆栽培を行い、煎茶と同様に新芽を蒸して揉んで乾燥させて製造。</p> <p>[主な産地] ・三重県、奈良県、静岡県、福岡県</p>	<p>[生産割合] 2.6%</p> <p>[荒茶価格] 1,659円/kg</p>
 <p>てん茶 (抹茶)</p>	<p>[特徴] ・摘採期前に棚施設等を利用して茶園をよしず、コモ、寒冷紗などの被覆資材で2～3週間程度覆った「覆下茶園」から摘採した茶葉を蒸熱し、揉まないでてん茶炉等で乾燥させて製造。 ・てん茶を茶臼等で微粉末状に製造したものが「抹茶」。</p> <p>[主な産地] ・鹿児島県、京都府、静岡県</p>	<p>[生産割合] 7.3%</p> <p>[荒茶価格] 3,278円/kg</p>
 <p>たまりよくちゃ 玉緑茶</p>	<p>[特徴] ・せん茶と同様に新芽を蒸して揉んで乾燥させるが、形を細長く整える工程（精揉）がないため、丸みを帯びた形状である。</p> <p>[主な産地] ・佐賀県、長崎県、熊本県</p>	<p>[生産割合] 1.9%</p> <p>[荒茶価格] 1,804円/kg</p>

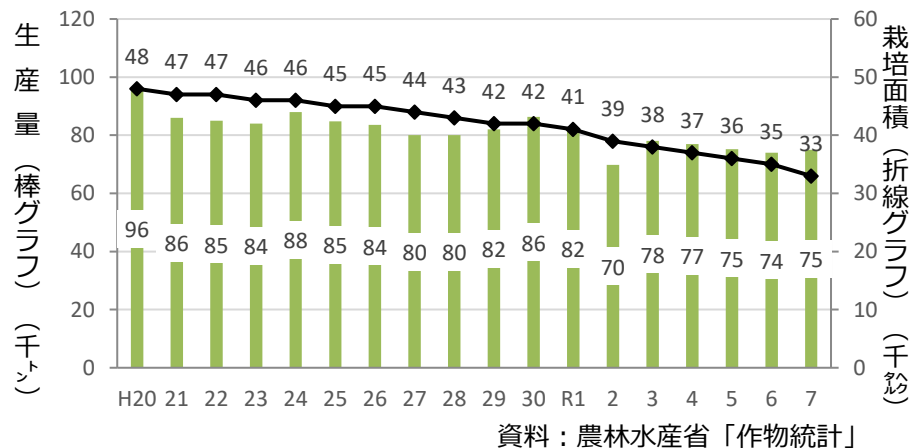
資料：荒茶生産割合及び荒茶価格（全茶期）は全国茶生産団体連合会調べ

参考：玉露、かぶせ茶及びてん茶を称して「おい茶」という。

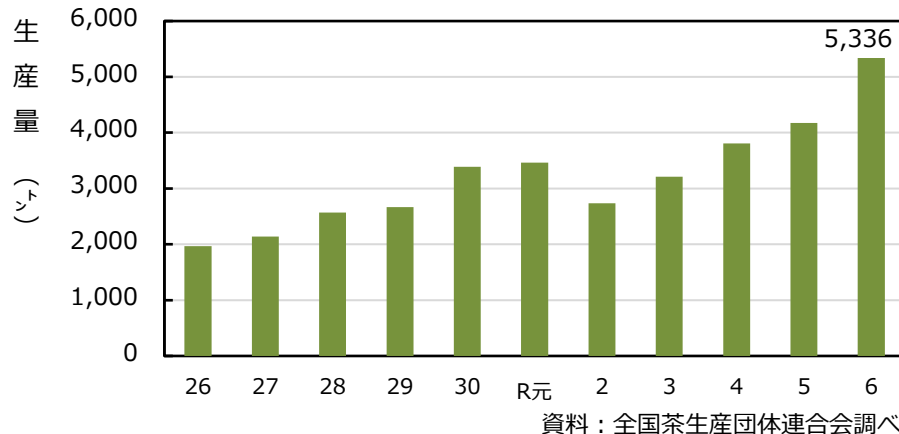
2. お茶の生産動向

- 栽培面積は緩やかに減少。生産量は7万トン台で推移。
- 茶期別生産量では、近年、主にリーフ茶向けの一番茶の生産量は減少しているが、ドリンク等向けの安価な四番茶・秋冬番茶の生産量は増加傾向。
また、需要の高まりを受け、てん茶の生産は増加傾向（R6/H26比：約2.7倍）。
- 茶農家1戸当たりの栽培面積は拡大が進んでおり、特に鹿児島県では規模拡大が顕著。

【お茶の作付面積・生産量の推移】



【てん茶の生産量の推移】



【茶期別生産量の推移】

	H20	H25	R元	R5	R6
一番茶	39,600	30,800	29,786	27,388	28,818
二番茶	28,000	26,000	20,869	20,121	17,807
三番茶	7,360	6,420	5,862	5,450	5,217
四番茶・秋冬番茶	18,530	19,620	22,851	21,634	21,518

資料：全国茶生産団体連合会調べ

【主産県における農家(注)1戸当たりの栽培面積の推移】

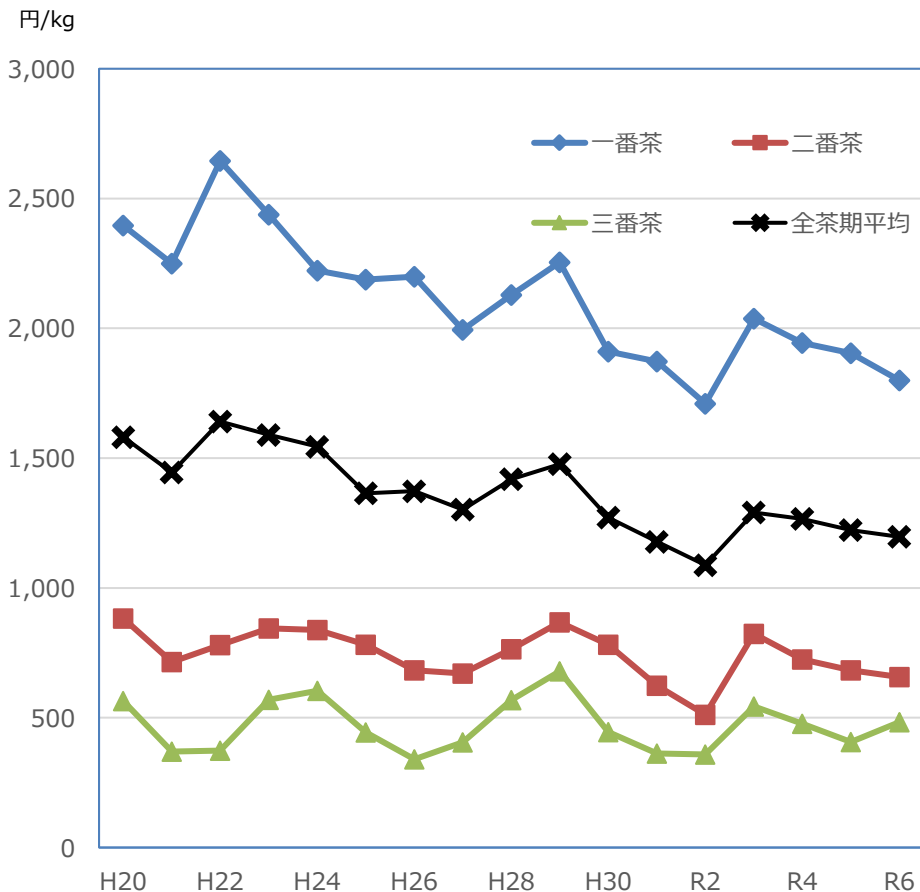
	静岡	鹿児島	三重	京都	福岡	宮崎	熊本
H17	0.8	2.1	0.9	1.1	0.8	1.7	0.8
H22	1.0	3.0	1.3	1.3	0.9	2.2	1.1
H27	1.2	3.3	1.5	1.5	1.1	2.1	1.1
R2	1.4	3.6	2.0	1.6	1.3	2.0	1.3

資料：農林水産省「農林業センサス」注：H27までは販売農家1戸当たり、R2は個人経営体当たりの栽培面積

3. 荒茶価格の動向

- 令和7年産一番茶は、前年と比較して鹿児島県で約3割、静岡県で約2割高い価格で取引。
- お茶の価格は、①茶種による価格差（てん茶はせん茶の約2.7倍）、②茶期による価格差等が大きく、これに品質に応じた価格差が加わるため、農家によっては大きな差が生じる。

【お茶価格の推移（荒茶・普通せん茶）】



資料：全国茶生産団体連合会調べ

【茶期毎の価格の推移（令和6年産の荒茶）】

単位：円/kg

	おい茶			せん茶		番茶	その他 緑茶
	玉露	かぶせ 茶	てん茶	せん茶	玉緑茶		
一番茶	2,637	2,219	3,891	1,800	2,196	510	1,317
二番茶	—	898	1,990	657	751	282	681
三番茶	—	—	—	483	501	368	165
秋冬番 茶	—	—	—	455	—	384	530
全茶期 平均	2,637	1,659	3,278	1,197	1,804	397	800

資料：全国茶生産団体連合会調べ